

映像の  
アルチザン

第22回

中之島映像劇場  
NAKANOSHIMA SCREEN

2022

3.12 土

3.13 日

国立国際美術館 地下1階 講堂

参加無料・各プログラム入れ替え制 要事前予約(先着50名)

詳細は当館サイトをご確認ください。

- 新型コロナウイルス感染予防対策を実施したうえで開催します。  
館内でのマスク着用など、来館者の皆様にもご協力をお願いします。
- 入館時に体温測定を実施します。37.5度以上の発熱が確認された場合は、入館をお断りします。
- 新型コロナウイルス感染症対策のため、中止になる場合があります。



3.12 土

13:00 - Aプログラム\*

15:00 - Bプログラム

終了後・アフタートーク  
大野松雄(音響デザイナー)

17:30 - Cプログラム

\*冒頭に担当者による解説を行います。

上映作品は裏面に掲載

3.13 日

10:00 - Dプログラム\*

12:30 - Eプログラム

14:15 - 特別講演

「ドキュメンタリーの詩性に向かって  
NFAJ所蔵松川八洲雄資料を読む」

講師:岡田秀則(国立映画アーカイブ主任研究員)

15:30 - Fプログラム

国立国際美術館  
THE NATIONAL MUSEUM OF ART, OSAKA

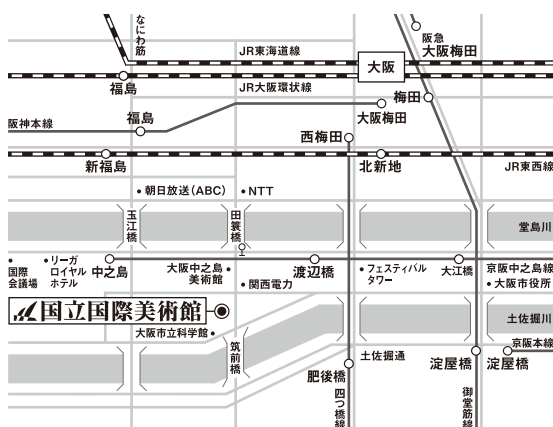
# 映像のアルチザン

## —松川八洲雄の仕事—

松川八洲雄(1931-2006)は、東京大学文学部美学美術史学科で仲間だった松本俊夫、藤原智子らとともに、1950年代後半に記録映画の世界に身を投じ、数多くのPR映画や産業映画、民俗芸能映画、さらには《鳥獣戯画》などのアート・ドキュメンタリーの先駆的な傑作を発表してきた人物です。「映像のアルチザン」を名のった松川は、多種多様なテーマや素材の映像製作に、スポンサーからの制約もあるなかで取り組み、通常のドキュメンタリーの手法に縛られない表現を模索することで、国内外の映画祭などで大きな評価を得る作品を創造しました。また、代表作の一つである《不安な質問》のように、現代の都市における生存の条件を鋭く捉えた自主製作映画も手掛けています。松川八洲雄が演出した膨大な仕事の軌跡をさかのぼることは、かつてドキュメンタリーの担い手たちが開拓した、豊かな映像表現の可能性の地平を回顧することでもあります。

### 【アクセス】

京阪電車で中之島線「渡辺橋駅」(2番出口)から南西へ徒歩約5分/Osaka Metro四つ橋線「肥後橋駅」(3番出口)から西へ徒歩約10分/JR「大阪駅」、阪急電車「大阪梅田駅」から南西へ徒歩約20分/JR大阪環状線「福島駅」、東西線「新福島駅」(2番出口)から南へ徒歩約10分/阪神電車「福島駅」(3番出口)から南へ徒歩約10分/Osaka Metro御堂筋線「淀屋橋駅」、京阪電車「淀屋橋駅」(7番出口)から西へ徒歩約15分/大阪シティバス「大阪駅前」から、53号・75号系統で、「田菱橋」下車、南西へ徒歩約3分/(お帰りのJR大阪駅方面最寄バス停は「渡辺橋」になります)  
●当館には専用駐車場はありません。ご来館は電車・バス等をご利用ください。  
●心身に障がいのある方で、車で来館される場合は、当館近隣の有料駐車場をご利用くださいますようお願いいたします。



### 【お問い合わせ】

TEL: 06-6447-4680(代) <https://www.nmao.go.jp/>  
〒530-0005 大阪市北区中之島4-2-55  
4-2-55 Nakanoshima, Kita-ku, Osaka 530-0005

国立国際美術館では、本上映会時に、次の展覧会を開催中です。  
「感覚の領域 今、「経験する」ということ」「コレクション2:つなぐいのち」

3.12 土

13:00— Aプログラム ※冒頭に担当者による解説を行います。

### 《一粒の麦》

(35mm / 1962年 / 28分 / 国立映画アーカイブ所蔵)  
企画: アサヒビール | 製作: 日本産業映画センター | プロデューサー: 田代博茂  
演出: 松川八洲雄 | 撮影: 佐藤昌道・鈴木喜代治 | 音楽: 関宮芳生 | ナレーション: 八木治郎

### 《鳥獣戯画》

(16mm [原版: 35mm] / 1966年 / 30分)  
製作: 映像社 | 演出: 松川八洲雄  
脚本: 松川八洲雄・藤原智子・大沼鉄郎・杉山正美・杉原せつ・富沢幸男  
撮影: 瀬川浩 | 音楽: 関宮芳生 | ナレーション: 芥川比呂志

### 《ヒロシマ・原爆の記録》

(16mm / 1970年 / 30分) ※デジタル上映  
企画: 広島原爆映画製作委員会 | 製作: 日本映画新社  
演出: 松川八洲雄・小笠原基生 | プロデューサー: 加納竜一 | 撮影: 杉崎理  
照明: 外山透 | 音楽: 関宮芳生 | 録音: 福田誠 | 語り: 宇野重吉

15:00— Bプログラム

### 《仕事=重サ×距離—三菱長崎造船所からのレポート—》

(16mm / 1971年 / 34分 / 国立映画アーカイブ所蔵)  
企画: 三菱重工長崎造船所 | 製作: 日本リクルートセンター | プロデューサー: 江口昭彦  
演出: 松川八洲雄 | 撮影: 瀬川順一・藤本義門 | 音響デザイン: 大野松雄・大橋鉄矢  
ナレーション: 岸田今日子

### 《土くれ—木内克の芸術—》

(35mm / 1972年 / 18分 / 国立映画アーカイブ所蔵)  
製作: 映隆社 | プロデューサー: 灰野謙三 | 演出: 松川八洲雄  
撮影: 楠田浩之・喜屋武隆一郎 | 録音: 甲藤勇 | 音楽: 木下忠司  
音響デザイン: 大野松雄  
終了後に大野松雄(音響デザイナー)によるアフタートークがあります。

17:30— Cプログラム

### 《飛鳥を作る》

(16mm / 1976年 / 50分) ※デジタル上映  
製作: 劇団四季映画社 | プロデューサー: 宮島春彦 | 演出: 松川八洲雄 | 撮影: 瀬川順一  
録音: 甲藤勇 | 音響デザイン: 大野松雄 | 音楽: 関宮芳生 | 制作進行: 眞部猪一  
撮影助手: 内藤雅行 | ナレーション: 藤野節子

### 《ムカシが来た—横浜市長屋門公園古民家復元の記録—》

(16mm / 1993年 / 46分)  
企画・製作: 横浜市緑政局・都市計画局、株式会社農村・都市計画研究所  
脚本・演出: 松川八洲雄 | 監修: 青木志郎・稲葉和也 | プロデューサー: 奥村玄  
撮影: 瀬川順一・柳田義和 | 音楽: 杉山洋一 | 音響デザイナー: 弦巻裕 | 照明: 外山透  
ナレーション: 浜美枝 | 助監督: 日向寺太郎

3.13 日

10:00— Dプログラム ※冒頭に担当者による解説を行います。

### 《JAPAN》

(16mm / 1973年 / 80分) ※デジタル上映  
企画・製作: 放送番組センター | 演出: 松川八洲雄 | 撮影: 立石潔・土橋孝次  
音楽: 関宮芳生 | 録音: 竹上隆夫 | ナレーション: 佐野浅夫・加藤道子

12:30— Eプログラム

### 《不安な質問》

(16mm / 1979年 / 85分 / 国立映画アーカイブ所蔵)  
企画・製作: たまごの会・映画委員会  
プロデューサー: 松川素子・湯浅欽史・武田哲夫 | 演出: 松川八洲雄  
撮影: 瀬川順一・内藤雅行・柳田義和・松川八洲雄・古山恵一郎  
録音: 弦巻裕 | 音楽: 関宮芳生

14:15— 特別講演

「ドキュメンタリーの詩性に向かって  
NFAJ所蔵松川八洲雄資料を読む」  
講師: 岡田秀則(国立映画アーカイブ主任研究員)

15:30— Fプログラム

### 《民俗芸能の心 琵琶湖・長浜 曳山まつり》

(16mm / 1985年 / 32分 / 国立映画アーカイブ所蔵)  
企画・製作: ボーラ伝統文化振興財団 | 製作協力: 英映画社 | 監修: 高橋秀雄  
プロデューサー: 服部悌三郎・宮下英一 | 監督・脚本: 松川八洲雄  
撮影: 江連高元・小林治・中井戸伸 | 照明: 前田基男 | 録音: 加藤一郎 | ナレーション: 原ひさ子

### 《民俗芸能の心 神々のふるさと・出雲神楽》

(16mm / 2002年 / 41分 / 国立映画アーカイブ所蔵)  
企画: ボーラ伝統文化振興財団 | 製作: 英映画社 | 監修: 高橋秀雄  
プロデューサー: 宮下英一・内海徳高 | 脚本: 菅野均 | 演出: 松川八洲雄  
撮影: 小林治・八幡洋一 | 照明: 前田基男 | 録音: 弦巻裕・松本修・南徳昭  
選曲: 山崎宏 | ナレーション: 北村昌子



松川八洲雄



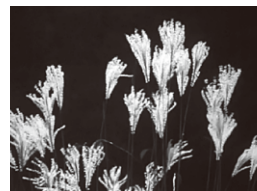
《ヒロシマ・原爆の記録》



《土くれ—木内克の芸術—》



《ムカシが来た—横浜市長屋門公園古民家復元の記録—》



《JAPAN》



《不安な質問》



《民俗芸能の心 琵琶湖・長浜 曳山まつり》



《民俗芸能の心 神々のふるさと・出雲神楽》